

KANSAI Univ. News

2011年
10月1日
第405号

関西大学通信

The first issue was published on June 19, 1969 and renewed on October 1, 2009.

■特集

つながる 誌上読書会

■Student Support キャリアセンター

2013年3月卒業生対象 就職活動のポイント

■「考動」するゼミ・サークル

- 社会学部 小川一仁 准教授
- 学術研究会 情報処理研究部

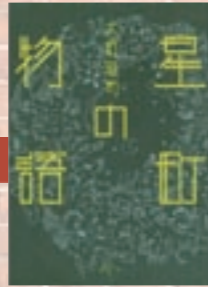


つながる 誌上読書会

読書の秋は新しい一冊に出会えるチャンスです。今号では誌上読書会を開催し、教員・学生・留学生が紹介するオスメの一冊を、新しいジャンルの読書に挑戦する4人の学生に読んでもらい、感想を聞いてみました。みなさんも今年の秋は、今まで読んだことのない一冊にチャレンジしてみませんか？



読書導入にお薦めの一冊です。



『星町の物語』
(太田忠司 著 / 理論社)



理工系学生に薦める一冊です。

『データマイニングとその応用』
(加藤直樹・羽室行信・矢田勝俊 著 / 朝倉書店)



文学部3年次生 竹林 裕美さん (文化会芸芸部)

この本は、星町というどこにでもありそうなどかな町に暮らす住人たちの、どこか不思議な日常を描いたショートショートです。

たとえば「標」という話は他の人には見えない不思議な光が見える男の話で、とても短いのですが、最後にゾクッとさせられるものがあります。

他にも「空き地」という話は、今まで家がなかった場所がある日気付くと空き地になっていた。そして空き地の存在にも慣れた頃、今度は空き地が無くなっていったという話です。不思議な話というわけではないのですが、どこか自分にも身に覚えがあるようで、ハッとさせられるものがある話です。

他にもたくさんのお話が入っていますが、短いものは1ページ、長いものでも6ページと短編ばかりなので、とても読みやすいです。ゾクッとさせられるものから、切ないもの、どこか懐かしいものまで、物語のバリエーションも豊富なので、きっと読む人にとってのお気に入りの一編が見つけれられる一冊だと思います。

総合情報学部2年次生 和田 優輝さん (体育会野球部)

僕は普段小説をほとんど読まず。野球関係の雑誌やファッション誌を読むくらいです。正直なところ、最初は気乗りしませんでした。しかし読み始めてみるとどんどんページが進みました。物語が長編ではないということ、ファンタジーのもつ面白さに興味を持ち始めたからだと思えます。

この小説は星町に住む人たちのさまざまな人生を垣間見るだけの物語です。詳しい描写や設定もありません。特に面白いと思った話は「創造」です。仕事に忙しい父親は息子と過ごす時間がありません。ある日帰宅すると息子がブロックで作ったライオンを見つけます。次の日、帰宅途中の男性が「猛獣らしきもの」に襲われたことを知ります。息子は毎日別の動物を作り、息子の作った動物に似た何かに男性が襲われる事件が続きます。そして父親は久しぶりに息子と顔を合わせ……。この事件は未解決で終わるので結末は想像するしかありません。この事件はなんだったのか、父親はどうなったのか、読み終わった後もいろいろと想像してしまいました。

現実には起こらないような話だからこそ、面白く思えました。また、この本にある物語は結末が謎のままだったり、オチに感じさせられる話ばかりでした。僕は本を読むことに興味を持てる楽しい本に出会えたと思います。

システム理工学部4年次生 松田 茂さん

本書は図表と身近な事例を用いてデータマイニングの基礎技術から多少高度な技術まで比較的最近のトピックスにも触れながら幅広く紹介しているので、ツールとして学びたい人から学問として学びたい人まで役立つ参考書になると思います。特に、後半部の5つの具体的な応用事例では、それまで本書で述べた解析方法を適用した分析を行い、そのプロセスについて触れているので、今まで見えてこなかった情報を得る方法やそのヒントが書かれており、理解しやすい内容になっています。本書で書かれている手法の中には今まで機械的に行っていた方法も書かれており、改めて本質を理解することができました。

本書を読むことで、多くの問題に対してデータマイニング的アプローチが可能になると思います。この手法や考え方は、理工系の研究においても十分に活用でき、データから何らかの知見を見いだそうとする際、この効率的な方法を用いて分析ができるのではないのでしょうか。

商学部 岩本 明憲准教授

「データマイニング」とは、大量に蓄積されたデータの中から新たなパターンや規則性や知見を「掘り起こす」ためのデータ分析(手法)のことであり、ここ数年、マーケティングの学科領域や実務への応用が急速に進んでいます。

本書は、このデータマイニングの手法を、数式をためらうことなく用いて説明し、かつ、マーケティング分野への実際の応用の仕方が具体的に示されています。著者はいずれも、データマイニングとそのマーケティングへの応用に関して、日本を代表する研究者であり、その一人である矢田勝俊氏は、幸いにも、関西大学商学部の教授です。商学部では、当該分野に関連する講義も開講されていますので、本書の内容に興味を持った学生はさらなる学習も進めやすいであろうということで本書を推薦します。



中国で流行した小説です。



『結婚狂詩曲 (囿城) 上・下』
(銭鍾書 著、荒井健・中島みどり・中島長文 訳 / 岩波文庫)



文系学生に薦める一冊です。

『リスク・リテラシーが身につく統計的思考法 初歩からバイズ推奨まで』
(ゲルト・ギーゲレンツァー 著、吉田利子 訳 / 早川書房)



文学部4年次生 張 翔さん

漢文学者で小説家の銭鍾書の『囿城』は、20世紀の30年代から40年代にかけての戦乱の中、海外留学を終えて4年ぶりに帰国した若いインテリたち(欧州から帰国した留学生、大学教授など)の、仕事や結婚における複雑な人間関係や自然で純粋な友情が、旧社会制度への闘争を背景に繰り広げられるストーリーです。

一般の日本人大学生と比べたら、まだ社会人になってはいませんが、ある程度の社会経験を積んだ留学生たちは、勉強面や生活面において、よりさまざまな問題に直面しているという現実があります。この小説は、まるで私たちの現実生活の縮小版のような存在であり、特に「囿在城中的人想出来、城外的人想冲进去、婚姻也罢、职业也罢、人生大抵如此(結婚というものは結局『囿城』のようなもので、外にいる人間は中に入りたいのに、中にいる人間は外に飛び出したい。婚姻にしる、仕事にしる、人生は大体そのようなものだ)」という名言は、多くの中国人の人生の座右の銘となっています。

外国語学部1年次生 四宮 愛子さん

2012年度の外国語学部 Study Abroad プログラムで北京外国語大学に留学を予定しているご縁から、この本を紹介していただきました。

この話の時代背景 1930年代は、中国全土が戦乱の中で混迷を極め、揺れ動いていた時代だったと思います。その中で、欧州留学帰りの主人公は、積極的に社会と関わろうとせず、伝統的価値観を基盤とする結婚生活にも浸れずいます。プライドの高いディレッタントとでもいえる主人公は、他人に依存しながらも逃げ場を探しているといえるのではないのでしょうか。

読後の第一印象は「なんと中途半端で節操のない生き方だろう」というものでした。主人公の「曖昧さ」に共感よりはむしろ違和感が否めなかったのが率直なところでした。

ですが、別の視点では、一つの価値観に依拠できない、いわばアンビバレント(二律背反的)なインテリ層の苦悩の姿が描かれているとも解釈されます。自分の前途を探し求めつつもモラトリアムから抜け出せずに「囿城」に囚われている主人公の有り様を、私と同年代の中国や日本人々々は、どの様に捉えるのでしょうか。興味をそそられるところです。

社会学部3年次生 島田 優さん

『リスク・リテラシーが身につく統計的思考法』というタイトルを見て、難しそうな本だという印象を受けました。しかし思い切ってみると、統計を文系の私でも理解できるように、初歩から解説している本でした。

本書を読んで一番印象に残った内容は、乳がんの検査(乳房エックス線検査)の結果についてです。検査結果が陽性ならば、きっと多くの人が「自分は乳がんか」と思い込んでしまうでしょう。しかし、検査結果が陽性で実際に乳がんである確率はどれくらいなのか、その確率の関連情報を「自然頻度」という考え方を取り入れると、陽性であっても大半が乳がんではないことが分かります。

このように確率や統計の数字には誤解がつきまとうので、専門家の言う数字を鵜呑みにするのではなく、リスクや情報を正しく理解することが大切だとこの本から学びました。

化学生命工学部 片倉 啓雄教授

部下から「先月の売り上げは前月比50%に減ってしまいました。外回りを増やした結果、今月は前月比で60%増でした」と報告を受けたとしたら、あなたはどのように答えますか? うっかりすると、よくやった、と褒めてしまいそうですが、2ヵ月前の売上額をたとえば100万円と仮定して実際の売上額で考えれば、前月は50万円に減り、今月はまだ80万円にしか回復していないことが分かります。

治療効果やリスクは、上述の例と同様に、絶対的な値や頻度で表現するよりも、相対的な比率で表現すれば大きく見えてしまいます。世の中には病気や事故、最近では放射線の問題など、さまざまなリスクが存在しますが、情報の発信者が意図的にデータの見せ方を変え、受け手の印象を操作していることが少なくありません。本書は、リスクを正しく理解するためのポイントをわかりやすく解説しており、賢い選択をしたい人にお薦めの一冊です。

3年次生・M1生は、これから本格的に就職活動が始まります。下記のスケジュールを参考に今後の活動を計画的に進めていきましょう。また、キャリアセンターでは就職活動に役立つ行事を多数開催します。さらに、就職活動などに関する個別相談も随時受け付けていますので、気軽にキャリアセンターへお越しください。

◆キャリアセンターからのお知らせ◆

～2013年3月卒業生対象の就職活動Q&A～

Q 例年と今年の就職活動スケジュールは、具体的にどこがどのように違うのですか？

A 今年から多くの企業の採用広報開始が、例年より2ヵ月遅れの12月からになります。しかし、エントリーシートや面接などの選考開始時期は例年通りです。つまり、みなさんが企業と接触し、企業を知る準備期間が短縮されるということです。そのため、12月までに自己分析や業界研究、さらには筆記試験対策などをしっかりと準備できるかが重要になってきます。

Q キャリアセンターでは今後どのような就職支援活動を行う予定ですか？

A 10月以降は就職活動に役立つ各種セミナー、対策講座などを順次行っていきます。特に、就活対策講座シリーズは、就職活動に役立つ要素がたくさん詰まったお勧めの講座です！

また、業界研究会では、企業の方を講師として招き、業界の現状や将来の展望について講演していただきます。こういったキャリアセンター主催の行事を積極的に活用しながら、効率良く準備を行い、12月から本格的に始まる就職活動に自信を持って臨みましょう！

就職活動のスケジュール

9月

※採用活動のスケジュールは企業によって異なるので、必ず各企業のウェブサイトで確認してください。

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

例年はこの時期からエントリーシート提出、企業と接触し、企業を知るための準備期間が短縮されます。

興味のある企業にエントリーシート提出、セミナー・会社説明会、筆記試験・面接

自己分析

業界・企業研究

筆記試験対策

キャリアセンター主催行事

第2回就職・進路ガイダンス

秋から就職活動が本格的に動き出します。今後のスケジュールとともに、就職活動に臨む心構えや準備について説明します。

公務員ガイダンス

公務員志望者に対し筆記試験の傾向と対策や、面接に関する注意点などをアドバイスします。

就活対策講座シリーズ

就職活動の基本から、グループディスカッションや面接のポイントまで、分かりやすく解説します。この講座に参加すれば、就職活動対策はバッチリです。

業界研究会

日本社会を支える産業はどのようなものがあるのか。各業界を代表する企業の講演を聞き、しっかり業界研究をしていきましょう。なお、この行事は1・2年次生も参加できます。

就職模擬試験

選考の中でもシビアな筆記試験。ここを越えなければ面接に進めず、自分自身をアピールできません。今からしっかりとした対策を！

第3回就職・進路ガイダンス

いよいよ目前に迫った選考に向けて、第2回よりも具体的な対策をアドバイス！

企業研究会

各企業の企業概要から採用スケジュール・求める人物像まで、具体的な説明が行われます。

エントリーシート対策セミナー

企業へのアピールの第1歩！誰もが苦悩するエントリーシートの考え方・書き方について解説します。参加すればエントリーシートの本質が見えてくる！

就職模擬面接

本番の面接を受ける前に、模擬面接を受けて雰囲気や心構えを学びましょう。

合同企業研究会

ブース形式で、1日に50社以上の企業の採用担当者から直接説明を聞くことができます。効率良く企業に出会えるBIGチャンスです！

※合同企業研究会は、例年2月以降も、5月・7月・9月・11月と複数回開催していきます。ぜひ参加してください！

★ここに挙げた行事はほんの一例です。キャリアセンター主催の行事やその詳細に関しては、KICSS（関西大学インターネットキャリア支援システム）でチェックしましょう！
※KICSSへは、インフォメーションシステムのトップ画面からアクセス可能です。

自身が納得できる進路に決まるまで頑張りましょう！

内定者に聞く！



上野 莉奈さん（社会学部4年次生） サントリーホールディングス株式会社 内定

Q 就職活動に対する不安はありましたか？

A もちろん最初は不安でした。ですが「やるだけのことは絶対やってやろう」と友達とも喝を入れあって、説明会を自分で調べるなどしてどんどん動きました。いくら氷河期と言っても企業は人を欲しがっているし、働く人がいなければ社会は回らないので、あまりネガティブなことは考えず「とにかく今自分ができるところを一杯やろう」と思っていました。

Q 志望業界はどのように決めましたか？

A 初めは、マスコミを勉強しているからマスコミ業界に行かなければ、と思い込んでいたのですが、色々な業種の企業説明会に行くと話を聞いたりしているうちに、その業界のことやライバル会社のことも知ることが

できました。その中で、「自分が何をしたいのか」「会社に何を求めるのか」と考え、私は「自己成長」でき、「挑戦できる場がほしい」のだと自己分析し、最終的に「やってみなはれ」という精神を大事にしているサントリーを志望し、内定をいただくことができました。

Q 面接でどんなことをアピールしましたか？

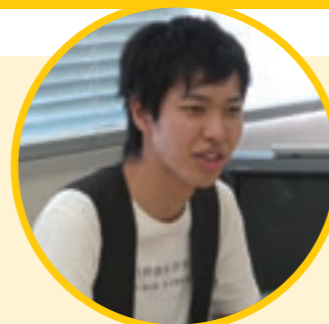
A 私は大学に入ってから、サークルやダンス、アルバイトと毎日意欲的に活動していました。また、小学3年生のときから空手を続けていたので、何にでも挑戦する活発なところと、粘り強く心身ともに強さがあるところをアピールしました。最初の頃は、おしとやかで誠実そうに見せなければ、と思うあまり、余計緊張して自分の考えがなかなか伝えられなかったのですが、友達から「それじゃあ、あなたの良い面が全部消えてしまうよ」と言われて、それからは地を出すようにして、誰よりも笑顔で大きな声で返事をするように心掛けました。

Q 最後に就職活動を振り返って感想を教えてください。

A 心身ともにとてもきつかったのは確かですが、やるだけのことをやって結果にも結びついたので、精一杯頑張った良かったと感じています。落ち込んだときに支えになるのは、やはり友達と家族だと思います。特に社会人大先輩の父には、ただ話を聞いてもらうだけで気持ちの整理ができましたし、母には不合格のときに泣きながら相談したりしましたが、「自分の納得がいくまで頑張りなさい。誰よりも応援しているよ」と言ってもらい、本当に感謝しています。みなさんも、気持ちの切り替えをして、プラス思考で就職活動に取り組んでほしいと思います。



インタビュアー：左から 真鍋ともこさん(商3)、前田望さん(経3)、羽谷夏海さん(社3)



清水 達也さん（政策創造学部4年次生） NEC（日本電気株式会社）内定

Q どのくらいの頻度で企業主催の説明会や合同説明会に参加していましたか？

A 11月頃は1日2社、2月頃は1日3社ほど参加していました。毎回参加していると企業の方も顔を覚えてくれるので、志望企業の説明会には何度も足を運びました。説明会では社員の方と話す機会があるので、絶対に5つ以上は質問をするように心がけていました。

Q 業界研究はどのようにしましたか？

A もともと金融業界に興味があり、就職活動も金融業界と電機メーカーを中心に行っていました。ただ金融業界の中でも銀行の業務内容はイメージできましたが、証券会社はイメージできなかったため、インターンシップではあえて証券会社に挑戦してみました。「〇〇が好きだからエントリーする。〇〇が

苦手だからエントリーしない」のではなく「なぜこの企業は存在するのか」と考え、企業の活動で一つでも共感できることを探しました。みなさんも企業に対する先入観を取り払った方がよいと思います。

Q 面接や筆記試験でのアドバイスをお願いします。

A 面接では、当たり前ですが大きな声で挨拶することや、面接官の目を見て話すことが大切です。質問は「学生時代に頑張ったこと」について一番聞かれましたね。社会に出るまでの集大成が大学なので、大学での成果だけではなく今までの生き方・バックグラウンドをしっかりと語り、自分がどのような人間なのかを分かってもらえるようにアピールしました。エントリーシートなど選考書類で素の自分を出した方が、面接でも面接官との会話が弾む場合があります。エントリーシートなど選考書類では、まずは自分で文字にして、人に見てもらえることが大事なので、ゼミの先輩やキャリアセンターのスタッフ、親などにアドバイスをもらうことをお勧めします。

また筆記試験は、就職活動が本格化すると対策をする時間がなくなってしまうので、年

内に対策本一冊は解いておいた方がよいです。キャリアセンター内の資料で、各企業の過去の出題傾向を調べることができますよ。

Q これから就職活動を始める後輩へのアドバイスをお願いします。

A 就職活動は一人でするものですが、一人の知識の幅はとても狭いと思います。また一人では恥をかくことがないので、プライドを捨てて多くの人に話を聞いてみてください。就職活動は登山に似ていて、終着点を決めるのは自分次第です。自分が出した結論が終着点になるので、途中で妥協せずに頑張ってください。



インタビュアー：左から 久保田千尋さん(文3)、西田耕一さん(社3)、藤井美帆さん(文2)、梅井美紀さん(社3)

「わかつちやいるけど、やめられない」を真剣に考える 宝迫 めぐみさん (社会学部3年次生)

Q.ゼミの研究テーマは？

A.「経済主体(組織と個人)が教科書的な経済学が想定するほど合理的ではないことを基礎にした政策分析の可能性について」です。

つては合理的だったけれど、今となっては非合理的な慣行が残っています。私たちのゼミでは、経済主体が抱えるこのような問題について学んでいます。

Q.具体的な研究内容

A.禁煙やダイエットの達成が難しいように、人間は「わかつてはいるけど、やめられない」生き物です。これは組織にも同じことがいえ、か

Q.先生を自慢するとしたら？

A.小川先生の基本スタイルは「私たち学生のしたいようにさせる」ことです。しかし、単に課題を与えるだけではなく、常に私たちをきちんとフォローしてくれます。懐の大きなお父さん、とでもいいますか。何度つまずこうがちゃんと後ろに先生がいてくれるので、私たちも安心して自由に学ぶことができます。また、私たちと年代も近いということもあり、とても話しやすいことも魅力です。意外とおちゃめな先生はお酒が大好きで、ゼミの飲み会にも積極的に参加してくれます。いつも私たちのことを考えてくれる自慢の先生です。



合同ゼミ会場・仁川大学にて



仁川での宿泊先にて(後列右から2人目が小川先生、前列左から3人目が宝迫さん)

Q.ゼミの魅力はなんですか？

A.ずばり、先生の人脈から生まれる合同ゼミ合宿です。今年は韓国へ赴き、仁川大学の学生と合同研究会を行いました。仁川大学の学生のレベルの高さに驚き、とても刺激を受けました。こうした取り組みはこのゼミならではのものです。また、ゼミの学生もオンとオフの切り替えができる人ばかりで、とてもまとまりがよく、和やかな雰囲気のゼミです。

考動するクラブ・サークル ● 学術研究会 情報処理研究部

パソコンについて詳しくなろう

Q.何人でどれくらいの頻度で活動していますか？

A.4年次生が4人、3年次生が4人、2年次生が4人、1年次生が1人おり、学期の初めに活動する曜日を決め、週に1回誠之館にある部室で部員による講座を行っています。講座ではWordを用いて、作成したレジュメを使います。現在は毎週金曜日に活動しています。

います。

パソコンの自作は一から必要なパーツを全部買い、実際にパーツを組み立てて、パソコンを動かすので、パソコンの仕組みについて一通り理解することができます。

合宿では関西大学の六甲山荘に宿泊します。六甲山周辺の地域探索や、セミナーハウスを借りて、PowerPointを用いたレクリエーションや討論会などを行っています。

Q.主な活動内容について教えてください

A.週1回の講座と、夏季休暇中にはパソコンの自作とサークルのOBを招いての合宿を行

Q.このクラブ・サークルのいいところは何ですか？

A.情報処理関係の部活動をしているので理系の人ばかりだと思われがちですが、実際は理系と文系の比率は半々ぐらいです。

パソコンに詳しくなくても、この部での活動を通してパソコンについての知識や、WordやExcelなどの使い方や、



合宿の様子(六甲山カンツリーハウスにて)



部室のパソコン(左が去年組み立てたパソコン)

Q.このクラブ・サークルの雰囲気はどんな感じですか？

A.かなり自由な雰囲気です。就職活動やアルバイトやゼミで忙しくて、週1回の講座のある日だけ部室に来る人もいれば、ほぼ毎日部室に来ている人もいます。

また、先輩後輩だからといって壁もなく、みんな仲良くやっています。

新任教員紹介

総合情報学部



教授 浅野 晃
(平成23年9月1日付)
専門：画像科学・感性科学

法務研究科



教授 三浦 潤
(平成23年9月21日付)
専門：民事実務

新役職者一覧(7月1日付)

◎法学部

教学主任 准教授 廣川 嘉裕
入試主任 教授 小泉 良幸

新役職者一覧(10月1日付)

◎商学部

経済・政治研究所長 教授 水野 一郎

◎文学部

教学主任 教授 長谷 洋一
学生主任 准教授 門林 岳史
学部学生相談主事 教授 増田 周子

◎経済学部

学部学生相談主事 教授 浜野 潔

◎商学部

副学部長 教授 中嶌 道靖
教学主任 教授 矢田 勝俊

◎政策創造学部

学部長 教授 後藤 元伸
副学部長 教授 小西 秀樹
副学部長 准教授 河崎 信樹
教学主任 准教授 西澤希久男
学生主任 教授 柄谷利恵子

◎総合情報学部

教学主任 教授 喜多 千草
教学主任 教授 森尾 博昭
学生主任 教授 林 武文

◎ガバナンス研究科

研究科長(政策創造学部長と兼任) 教授 後藤 元伸

◎教育推進

教育開発支援センター長 教授 田中 俊也
教育開発支援センター副センター長 教授 山本 敏幸
教職支援センター長 教授 山本 登朗
教職支援センター副センター長 准教授 広瀬 義徳

平成23年度 秋学期客員教授

本学では、学術研究および教育水準の向上を図るため、次の2人を平成23年度秋学期客員教授として委嘱した。

氏名	所属または本務校
柴崎 亮介	東京大学 空間情報科学研究センター長
Paul H. Kasai	株式会社 Moresco 技術顧問

春学期卒業式及び学位(修士・専門職)記授与式・学位(博士)記授与式・秋学期入学式を挙行

9月16日10時から100周年記念会館で、春学期卒業式及び学位(修士・専門職)記授与式と学位(博士)記授与式が行われ、また13時からは秋学期入学式が挙行された。

春学期学部卒業生は169人、大学院博士課程前期課程修了生は17人、専門職学位課程修了生は35人、博士課程後期課程修了生は10人、論文博士は6人であった。

また、秋学期入学生は、総合情報学部4人、文学研究科3人、理工学研究科2人、東アジア文化研究科6人で、新たな学びをスタートさせた。



厳かな雰囲気にもまれた卒業式および学位記授与式



入学式の様子

関西大学、大阪大学、神戸大学、関西学院大学が国際化推進に向けたネットワーク形成に関する協定を締結

7月27日、関西大学、大阪大学、神戸大学、関西学院大学は、国際化推進に向けたネットワーク形成に関する協定を締結することで合意に達し、大阪大学豊中キャンパスで、協定書の調印を行った。

これまで各大学において実施してきた「大学の国際化」をさらに推進するため、ネットワークを形成することにより、連携を図ることを目的としている。

具体的には、今後、4大学間での教職員や留学生の交流、留学生と産業界の交流、海外拠点での活動、さらには情報や資料の交換を行うなど予定している。はじめの取り組みとして、7月30日にタイ・バンコクで4大学合同留学フェアが開催され、約150人が来場し成功裏に終えた。



調印式での様子

関大生ら約500人が淀川大掃除を実施

8月7日、淀川河川公園で、関大生ら約500人が淀川大掃除を実施した。この活動は、本学ボランティアセンター学生スタッフが、関大生にボランティア活動について関心を持ってもらう目的で2007年から実施してきたもの。5年目となる今年は、同スタッフが2011年1月、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長から「淀川サポーター」に認定されたことを受け、本学体育会との共催で、企業などからの協力も得て規模を拡大し、「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」と題して行われた。

当日は晴天の下、ポリ袋を手に河川敷を約2キロ、ゴミを拾って歩い

た。前日に花火大会が行われたこともあり、約3.5トンものゴミを回収した。今回初めて参加した経済学部1年次生の長谷川大晃さん(体育会アメリカンフットボール部所属)は、「最初はしんどかったですが、みんなで協力してゴミを拾っていくうちに、道がどんどんきれいになり、最後は楽しくなりました。次の活動があれば、友人も誘って是非また参加したいです」と、汗を拭きながら、笑顔で感想を述べた。淀川大掃除は、来年以降も続けていく予定。



集合写真：淀川大掃除参加メンバー



河川敷に落ちているゴミを拾いながら歩く学生たち

政策創造学部の学生らが「まごころ講談会」に参加し福島県を訪問

政策創造学部の学生や講師の旭堂南陽さんらが結成した「まごころ講談会」が6月29日から3日間、福島県内の被災地を訪問した。

総勢15人の「まごころ講談会」の一行は、避難先である旅館や特別養護老人ホームなどを訪れ、被災者たちと交流した。政策創造学部の3年次生、石井純平さんは「メディアが連日原発のことを報道しているのに、他府県の人が福島に偏ったイメージを持ってしまっているのではないか、という疑問を持った。原発だけでなく被災者の日常の暮らしを多くの角度からレポートする必要性を感じた」と語った。旭堂さんは郡山市の「ビッグパレットふくしま」を訪れ、独特の語り口調で上方講談を披露した。

7月10日には、大阪市内のイベントスペース「スポニチプラザ大阪」で、7月11日には関西大学で、約300人の学生を前に、福島県の現状を伝える報告会を開催した。



避難中の女性に話をきく政策創造学部の学生

KUカレンダー10/1-15

日程	イベント・行事名	主対象	問い合わせ先
1日(土)	文化交渉学教育研究拠点(ICIS) 国際シンポジウム(～2日)	学生・教職員・一般	G-COE 拠点事務局
	2011 大阪都市遺産 秋の国際シンポジウム	学生・教職員・一般	大阪都市遺産研究センター
	KUBIC2011関西大学ビジネスプラン・コンペティション本選会	学生・教職員・一般	KUBIC 事務局
4日(火)	国際部 第2回国際教育セミナー	学生・教職員・一般	国際部
	大武健一郎客員教授による講演会	学生・教職員・一般	経商オフィス
5日(水)	経済・政治研究所 第2回公開セミナー	学生・教職員・一般	研究所事務局
6日(木)	竹中平蔵客員教授による講演会	学生・教職員・一般	専門職大学院事務グループ
8日(土)	経済・政治研究所 第194回公開講座	学生・教職員・一般	研究所事務局
	地域交流ワークショップ「丹波の祭りと風景を考える」	学生・教職員・一般	関西大学 TAFS 佐治&千里山スタジオ
14日(金)	経済・政治研究所 第192回産業セミナー	学生・教職員・一般	研究所事務局

イベント・行事については、予告なく変更される場合があります。また、今後追加・中止となるイベント・行事もあります。詳細・最新情報については、本学ウェブサイトならびに問い合わせ先のウェブサイトなどで必ず確認してください。